



過去に経験のない暑い夏も終わり、やっと過ごしやすい季節となりましたが、みなさま、お元気に活躍されていると思います。近年、地震や豪雨などの自然災害の発生が増えており、交通網の寸断による混乱が懸念されています。今回は奈良県警察本部交通規制課の方より伺った内容をもとに、災害時の交通規制等についての情報をお届けします。

大規模災害発生時の交通規制について

大規模災害(地震、台風、豪雨など)が発生した場合、奈良県は全国各地から被災地へ向かう緊急通行車両の通過拠点となることが考えられます。奈良市においては、第2阪奈道路や西名阪自動車道などが、**緊急交通路**として計画に位置づけられています。

災害活動用車両は、令和5年9月1日以降、災害発生前であっても「緊急通行車両確認証明書」および「標章」の交付を受けることが可能となりました。対象車両がこの交付を事前に受けておくことで、災害時の初動対応を迅速かつ円滑に実施することができます。

これまでに発生した熊本地震や能登半島地震では、緊急交通路の指定こそ行われませんでした。必要に応じて交通規制が実施され、渋滞が発生しました。

奈良盆地東縁断層地帯で地震が発生した場合には、阪奈道路・国道24号線・国道169号線などにおいて交通規制が行われ、大規模な渋滞が発生することが想定されます。また、道路の損壊などで物理的に通行できない箇所や道路管理者によって通行止めが実施される可能性もあります。そのため、迂回措置が取られることも考えられ、**平常時から迂回路を把握しておくなど、事前の備えが重要**です。

平常時からの備え～心がけておきたいこと～

緊急交通路を 把握しておこう

自宅や職場周辺の緊急交通路や迂回路を把握し共有しましょう。
災害時の混乱を防ぐために大切な準備です！

徒歩や自転車の 移動手段も

視野に入れ備えよう
自宅や職場から避難所までの徒歩・自転車ルート事前に確認し、複数の移動手段を想定しておきましょう。

災害時の交通情報

収集手段を確保しよう

ラジオ、スマホアプリ、自治体の防災メールなど複数の方法を活用することで災害時にも安心です！

備えは『自助・共助』 の第一歩です！



公式

奈良市防災

ポータルサイト

道路状況・公共交通機関の運行状況・避難所情報などがリアルタイムで確認できます。

11/18「奈良あんしんネット(MCS)」 (火) による災害時模擬訓練を実施します！

共助のためのネットワーク作りに、ぜひご参加ください！

詳しくは当センターまでお問い合わせください。



1/31 奈良市多職種連携全体研修会 開催！ (土) 「奈良盆地東縁断層地震が起こったらどうする？第2弾 ～伝える・つながる・助け合う～」

基調講演：「防災×福祉×健康」で進める地域防災
京都大学防災研究所 矢守 克也 教授

場所：奈良市商工会議所 詳細は改めてご案内します。



病院紹介コーナー

奈良春日病院



当院は、昭和55年の開設時より、主に高齢者の方を対象とした長期療養目的の患者受入体制を確立し、療養型病床を中心とした治療・介護を行っています。

当院の理念【我々は全人的かつ総合的な医療と介護を推進し、常に地域の皆さまに寄り添い、そして愛され信頼される病院になることを目指します】を掲げ、【面倒見のいい病院】を目標とし、患者さんが身近な地域で最適な治療や介護を受け、安心して療養生活を送れるように、地域の診療所や病院、訪問看護・介護事業所の方々と緊密なチーム医療連携を築いています。

当院の地域医療連携室では・・・

- 他医療機関からの転院相談窓口
- 開業医や施設からの受診・入院相談
- 病状に応じた適切な医療機関または施設への紹介
- 開業医やケアマネージャーからのレスパイト入院依頼
- 在宅医療・在宅療養を行うための退院支援



などの業務を行っており、医療機関が情報共有及び診療協力しながら、患者さんが適切な医療を受けられるようにサポートしております。地域医療連携室が窓口となり、地域医療の要として従事しております。

また、患者さんが抱えるさまざまな問題に、ソーシャルワーカー・医師・看護師など多職種が協働し、行政や医療福祉機関との連絡、調整を行いながら、患者さんの療養環境整備のお手伝いをします。



包括紹介コーナー

都南地域包括支援センター



都南圏域には安産祈願で有名な帯解寺、紅葉や人形供養でも知られる正暦寺があります。多くの自然を身近に感じられ、東海自然歩道と山の辺の道が重なる地域ではのどかな景観が見られます。

圏域の高齢者人口は1万人を超え、当センターでは地域の皆さまのご協力をいただきながら様々な介護相談に応じています。最近では数日間連絡が取れない住民さんがいると連絡が入り、民生委員さんに相談するとすぐに訪問して下さり、安否が確認できた事もありました。一人暮らしの方が増える中、民生委員さんとの連携は今後ますます必要になってくるだろうと思います。民生委員さんは地域の活動にも多く寄与されており、ここ1、2年で民生委員さんが中心となり、サロンやこども食堂が立ち上がりました。いずれのイベントにも高齢の方が多く参加され楽しい時間を過ごされています。また、地域の会合で地区会長さんから地域ごとに課題も違うという意見をいただきました。団地が多い圏域の西部からは上の階からのゴミ出しに負担が生じていることや、山間地区では家族の助けがなければ外出が困難であったり、農業をされている方では獣害問題が生じていると聞きました。同じ圏域であっても地域の特性が違うことに気づかされています。いずれにしても、地域に出なければ高齢者の情報はつかめません。地域包括支援センターは介護保険サービス以外にも多くの社会資源を把握し、地域の方に情報提供できるよう努めなければならないと考えています。また、地域の皆様のご協力があって、地域包括支援センターは運営ができています。

今後も地域の民生委員さんや福祉センターなどの公的な施設とも連携を深め、共に地域の高齢者の方を支えることができたいと思っています。

